

【1】

【解答】

	ア	イ	ウ	
(1)	4	2	$-\frac{1}{2}$	
	エ	オ	カ	キ
(2)	8	$\sqrt{11}$	$9t^2+16t+11$	$\frac{\sqrt{35}}{3}$
	ク	ケ	コ	
(3)	80	$\frac{1792}{9}$	0	

【解説】

(1)

$x \rightarrow 1$ で $\frac{a\sqrt{x}-4}{x-1}$ の分母が 0 に収束するから、 $\frac{a\sqrt{x}-4}{x-1}$ が有限な値に収束するには、分子も 0 に収束することが必要である。

$$\lim_{x \rightarrow 1} (a\sqrt{x}-4) = a-4$$

であるから、これには $a=4$ が必要である。逆に $a=4$ のとき、

$$\begin{aligned} \lim_{x \rightarrow 1} \frac{a\sqrt{x}-4}{x-1} &= \lim_{x \rightarrow 1} 4 \cdot \frac{\sqrt{x}-1}{(\sqrt{x}-1)(\sqrt{x}+1)} \\ &= \lim_{x \rightarrow 1} \frac{4}{\sqrt{x}+1} \\ &= 2 \end{aligned}$$

となり、 $\frac{a\sqrt{x}-4}{x-1}$ は確かに有限な値 2 に収束する。よって、 $a=4$ である。また、

$$\begin{aligned} \lim_{x \rightarrow \infty} (\sqrt{x^2-x}-x) &= \lim_{x \rightarrow \infty} \frac{(\sqrt{x^2-x}-x)(\sqrt{x^2-x}+x)}{\sqrt{x^2-x}+x} \\ &= \lim_{x \rightarrow \infty} \frac{(x^2-x)-x^2}{\sqrt{x^2-x}+x} \\ &= \lim_{x \rightarrow \infty} \frac{1}{\sqrt{1-\frac{1}{x}}+1} \\ &= -\frac{1}{2} \end{aligned}$$

である。

(2)

$$|\bar{a}+\bar{b}|=6, |\bar{a}-\bar{b}|=2 \text{ より,}$$

$$\begin{aligned} |\bar{a}+\bar{b}|^2 - |\bar{a}-\bar{b}|^2 &= 32 \\ \Leftrightarrow |\bar{a}|^2 + 2\bar{a} \cdot \bar{b} + |\bar{b}|^2 - |\bar{a}|^2 + 2\bar{a} \cdot \bar{b} - |\bar{b}|^2 &= 32 \\ \Leftrightarrow 4\bar{a} \cdot \bar{b} &= 32 \\ \Leftrightarrow \bar{a} \cdot \bar{b} &= 8 \end{aligned}$$

であり、これより、

$$\begin{aligned} |\bar{a}+\bar{b}|^2 &= 36 \\ \Leftrightarrow |\bar{a}|^2 + 2\bar{a} \cdot \bar{b} + |\bar{b}|^2 &= 36 \\ \Leftrightarrow |\bar{a}|^2 + 16 + 9 &= 36 \\ \Leftrightarrow |\bar{a}|^2 &= 11 \\ \Leftrightarrow |\bar{a}| &= \sqrt{11} \end{aligned}$$

である。ここで、

$$\begin{aligned} |\bar{a}+t\bar{b}|^2 &= |\bar{a}|^2 + 2t\bar{a} \cdot \bar{b} + t^2|\bar{b}|^2 \\ &= 9t^2 + 16t + 11 \\ &= 9\left(t + \frac{8}{9}\right)^2 + \frac{35}{9} \end{aligned}$$

であるから、 $|\bar{a}+t\bar{b}|^2$ の最小値は $\frac{35}{9}$ である。 $|\bar{a}+t\bar{b}| \geq 0$ より、 $|\bar{a}+t\bar{b}|^2$ が最小になるとき $|\bar{a}+t\bar{b}|$

も最小となるので、 $|\bar{a}+t\bar{b}|$ の最小値は $\sqrt{\frac{35}{9}} = \frac{\sqrt{35}}{3}$ である。

(3)

2項定理より、

$$\begin{aligned} (x+2y)^5 &= \sum_{k=0}^5 {}_5C_k x^k (2y)^{5-k} \\ &= \sum_{k=0}^5 {}_5C_k \cdot 2^{5-k} \cdot x^k y^{5-k} \end{aligned}$$

であるから、これの x^2y^3 の係数は、 $k=2$ の項を考えて、

$${}_5C_2 \cdot 2^3 = 80$$

である。また、

$$\begin{aligned} \left(2x - \frac{1}{3x^3}\right)^8 &= \sum_{k=0}^8 {}_8C_k (2x)^k \left(-\frac{1}{3x^3}\right)^{8-k} \\ &= \sum_{k=0}^8 {}_8C_k \cdot 2^k \cdot \left(-\frac{1}{3}\right)^{8-k} \cdot x^{4k-24} \end{aligned}$$

であるから、これの定数項は、 $k=6$ の項を考えて、

$${}_8C_6 \cdot 2^6 \cdot \left(-\frac{1}{3}\right)^2 = \frac{1792}{9}$$

である。また、

$$f'(x) = 100 \cdot (1+x)^{99}$$

であるが、2項定理より、

$$f(x) = \sum_{k=0}^{100} {}_{100}C_k \cdot x^k \cdot 1^{100-k} = \sum_{k=0}^{100} {}_{100}C_k x^k$$

であることに注意すれば、

$$f'(x) = \sum_{k=1}^{100} k {}_{100}C_k x^{k-1}$$

である。よって、

$$\sum_{k=1}^{100} k {}_{100}C_k x^{k-1} = 100 \cdot (1+x)^{99}$$

である。 $x=-1$ を代入すれば、

$$\sum_{k=1}^{100} (-1)^{k-1} \cdot k \cdot {}_{100}C_k = 0$$

であることが分かる。

[2]

[解答]

ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ
$\sqrt{2}$	$\frac{2x}{x^2+1}$	$\frac{-2(x^2-1)}{(x^2+1)^2}$	$-\log 3$	$\log \frac{2}{3}$	$-\frac{3\sqrt{2}}{4}$	$\frac{3}{2}$	$3e^y - 1$	$3e^y - y$	$(3 - \log 3)\pi$

[解説]

$$\log \frac{x^2+1}{3} = 0$$

$$\Leftrightarrow \frac{x^2+1}{3} = 1$$

$$\Leftrightarrow x = \pm\sqrt{2}$$

であるから、 C と x 軸との交点の x 座標は $\pm\sqrt{2}$ である。

$$f(x) = \log(x^2+1) - \log 3$$

であるから、

$$f'(x) = \frac{2x}{x^2+1}$$

$$\begin{aligned} f''(x) &= \frac{2 \cdot (x^2+1) - 2x \cdot 2x}{(x^2+1)^2} \\ &= \frac{-2(x^2-1)}{(x^2+1)^2} \end{aligned}$$

である。よって、 $0 \leq x$ での $f(x)$ の増減表は以下の通りとなる。

x	0	...	1	...
$f'(x)$	0	+	+	+
$f''(x)$	+	+	0	-
$f(x)$	$-\log 3$	↗	$\log \frac{2}{3}$	↖

$f(x)$ が偶関数であることに注意すれば、 $f(x)$ の最小値は

$$f(0) = -\log 3$$

であり、変曲点の x 座標は ± 1 で、その y 座標は

$$f(\pm 1) = \log \frac{2}{3}$$

であることが分かる。また、

$$f'(\sqrt{2}) = \frac{2\sqrt{2}}{3}$$

であるから、 $A(\sqrt{2}, 0)$ での法線である直線 m の方程式は、

$$(x - \sqrt{2}, y) \cdot \left(1, \frac{2\sqrt{2}}{3}\right) = 0$$

$$\Leftrightarrow x - \sqrt{2} + \frac{2\sqrt{2}}{3}y = 0$$

$$\Leftrightarrow y = -\frac{3\sqrt{2}}{4}x + \frac{3}{2}$$

であり、この傾きは $-\frac{3\sqrt{2}}{4}$ である。また、これと y 軸との交点の y 座標は $\frac{3}{2}$ である。また、

$$y = \log \frac{x^2+1}{3}$$

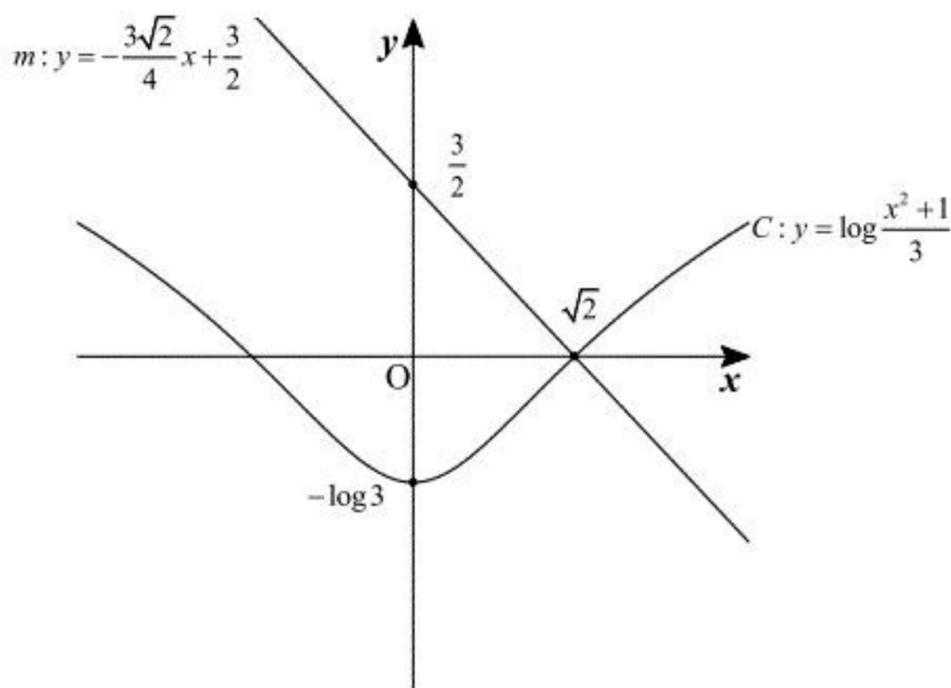
$$\Leftrightarrow e^y = \frac{x^2+1}{3}$$

$$\Leftrightarrow x^2 = 3e^y - 1$$

であるから、積分定数を c とすれば、

$$\int x^2 dy = 3e^y - y + c \quad \dots \textcircled{1}$$

である。



直線 m と曲線 C の位置関係は上図の通りである。ここで、

$$y = -\frac{3\sqrt{2}}{4}x + \frac{3}{2}$$

$$\Leftrightarrow x = -\frac{2\sqrt{2}}{3}y + \sqrt{2}$$

であるから、曲線 C の $x \geq 0$ の部分、直線 m 、 y 軸で囲まれる図形を y 軸の周りに1回転してできる立体の体積は、①の結果を用いると、

$$\begin{aligned} \pi [3e^y - y]_{-\log 3}^0 + \frac{1}{3} \cdot \pi \cdot (\sqrt{2})^2 \cdot \frac{3}{2} &= \pi(3 - 1 - \log 3) + \pi \\ &= (3 - \log 3)\pi \end{aligned}$$

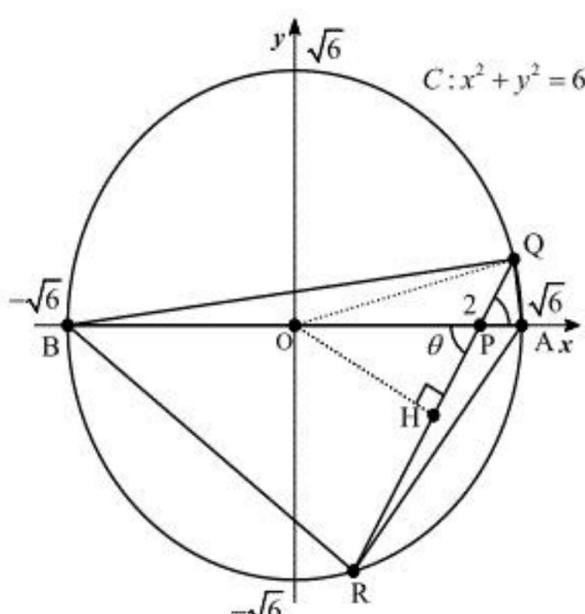
である。

[3]

[解答]

ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ
$2\sin\theta$	$6-4\sin^2\theta$	$\sqrt{6}$	$9-6\sin^2\theta$	$\frac{\pi}{4}$	$48s(3-2s)$	$\frac{\pi}{3}$	$3\sqrt{6}$	$y=\sqrt{3}x-2\sqrt{3}$	$\frac{3+\sqrt{3}}{2}$

[解説]



$$\angle OHP = \frac{\pi}{2}$$

であるから、

$$\begin{aligned} OH &= OP \sin \theta \\ &= 2 \sin \theta \end{aligned}$$

であり、

$$\begin{aligned} QH &= \sqrt{OQ^2 - OH^2} \\ &= \sqrt{6 - 4 \sin^2 \theta} \end{aligned}$$

である。また、点 Q の y 座標が $QP \sin \theta$ であることから、

$$\begin{aligned} S_1 &= \frac{1}{2} \cdot AB \cdot QP \sin \theta \\ &= \sqrt{6} QP \sin \theta \end{aligned}$$

であり、点 R の y 座標が $-PR \sin \theta$ であることから、

$$\begin{aligned} S_2 &= \frac{1}{2} \cdot AB \cdot PR \sin \theta \\ &= \sqrt{6} PR \sin \theta \end{aligned}$$

である。よって、

$$\begin{aligned} S(\theta) &= S_1 + S_2 \\ &= \sqrt{6} (QP + PR) \sin \theta \\ &= \sqrt{6} (QH + RH) \sin \theta \\ &= \sqrt{6} \cdot 2 \sqrt{6 - 4 \sin^2 \theta} \cdot \sin \theta \\ &= 4 \sin \theta \sqrt{9 - 6 \sin^2 \theta} \end{aligned}$$

である。ここで、

$$\begin{aligned} S(\theta) &> 4\sqrt{3} \\ \Leftrightarrow 4 \sin \theta \sqrt{9 - 6 \sin^2 \theta} &> 4\sqrt{3} \\ \Leftrightarrow \sin \theta \sqrt{3 - 2 \sin^2 \theta} &> 1 \end{aligned}$$

であり、 $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$ より $\sin \theta > 0$ であり、両辺が正であるから、辺々を二乗すると、

$$\begin{aligned} \sin^2 \theta (3 - 2 \sin^2 \theta) &> 1 \\ \Leftrightarrow -2 \sin^4 \theta + 3 \sin^2 \theta - 1 &> 0 \\ \Leftrightarrow (2 \sin^2 \theta - 1)(\sin^2 \theta - 1) &< 0 \\ \Leftrightarrow \frac{1}{2} < \sin^2 \theta < 1 \\ \Leftrightarrow \frac{1}{\sqrt{2}} < \sin \theta < 1 \quad (\because \sin \theta > 0) \\ \Leftrightarrow \frac{\pi}{4} < \theta < \frac{\pi}{2} \end{aligned}$$

である。 $s = \sin^2 \theta$, $t = \{S(\theta)\}^2$ とおくと、 $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$ で $0 < \sin \theta < 1 \Leftrightarrow 0 < s < 1$ であることに注意すれば、

$$\begin{aligned} t &= 16 \sin^2 \theta (9 - 6 \sin^2 \theta) \\ &= 48s(3 - 2s) \\ &= -96 \left(s - \frac{3}{4} \right)^2 + 54 \end{aligned}$$

より、 t は $s = \frac{3}{4}$ のときに最大値 54 をとる。 $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$ で $S(\theta) > 0$ であるから、 $S(\theta)$ を最大にする θ と $t = \{S(\theta)\}^2$ を最大にする θ は一致する。ここで、

$$\begin{aligned} s &= \frac{3}{4} \\ \Leftrightarrow \sin \theta &= \frac{\sqrt{3}}{2} \quad (\because \sin \theta > 0) \\ \Leftrightarrow \theta &= \frac{\pi}{3} \quad \left(\because 0 < \theta < \frac{\pi}{2} \right) \end{aligned}$$

であるから、 $S(\theta)$ は $\theta = \frac{\pi}{3}$ のときに最大値 $\sqrt{54} = 3\sqrt{6}$ をとる。

$\theta = \frac{\pi}{3}$ のとき、直線 QR の傾きは $\tan \theta = \sqrt{3}$ であり、これが点 P(2, 0) を通るから、直線 QR の方程式は、

$$\begin{aligned} y &= \sqrt{3}(x - 2) \\ \Leftrightarrow y &= \sqrt{3}x - 2\sqrt{3} \end{aligned}$$

である。点 Q および点 R の x 座標は直線 QR の方程式と円 C の方程式 $x^2 + y^2 = 6$ から y を消去して、

$$\begin{aligned} x^2 + \{\sqrt{3}(x - 2)\}^2 &= 6 \\ \Leftrightarrow 4x^2 - 12x + 6 &= 0 \\ \Leftrightarrow 2x^2 - 6x + 3 &= 0 \\ \Leftrightarrow x &= \frac{3 \pm \sqrt{3}}{2} \end{aligned}$$

となるが、点 Q の x 座標は点 R の x 座標より大きいので、点 Q の x 座標は $\frac{3 + \sqrt{3}}{2}$ である。

[4]

(1)

$$a_{n+1} = 4a_n + b_n \quad \dots \textcircled{1}$$

$$b_{n+1} = 2a_n + 3b_n \quad \dots \textcircled{2}$$

より、 $\textcircled{1} - \textcircled{2}$ から、

$$a_{n+1} - b_{n+1} = 2a_n - 2b_n$$

$$\Leftrightarrow c_{n+1} = 2c_n$$

であり、

$$c_1 = a_1 - b_1 = 6 - 3 = 3$$

であるから、数列 $\{c_n\}$ は初項3、公比2の等比数列である。よって、

$$c_n = 3 \cdot 2^{n-1}$$

である。

(答) $c_n = 3 \cdot 2^{n-1}$

(2)

(1)より、

$$a_n - b_n = 3 \cdot 2^{n-1}$$

$$\Leftrightarrow b_n = a_n - 3 \cdot 2^{n-1}$$

であるから、これを式 $\textcircled{1}$ に代入して、

$$a_{n+1} = 4a_n + a_n - 3 \cdot 2^{n-1}$$

$$= 5a_n - 3 \cdot 2^{n-1}$$

となる。

(答) $a_{n+1} = 5a_n - 3 \cdot 2^{n-1}$

(3)

(2)より $a_{n+1} = 5a_n - 3 \cdot 2^{n-1}$ である。 $2^{n+1} > 0$ より、この式の辺々を 2^{n+1} で割ると、

$$\frac{a_{n+1}}{2^{n+1}} = \frac{5}{2} \cdot \frac{a_n}{2^n} - \frac{3}{4}$$

$$\Leftrightarrow d_{n+1} = \frac{5}{2} d_n - \frac{3}{4}$$

$$\Leftrightarrow d_{n+1} - \frac{1}{2} = \frac{5}{2} \left(d_n - \frac{1}{2} \right)$$

となる。 $d_1 - \frac{1}{2} = \frac{a_1}{2} - \frac{1}{2} = \frac{5}{2}$ より、数列 $\left\{ d_n - \frac{1}{2} \right\}$ は、初項 $\frac{5}{2}$ 、公比 $\frac{5}{2}$ の等比数列であるから、

$$d_n - \frac{1}{2} = \frac{5}{2} \cdot \left(\frac{5}{2} \right)^{n-1}$$

$$\Leftrightarrow d_n = \left(\frac{5}{2} \right)^n + \frac{1}{2}$$

である。

(答) $d_n = \left(\frac{5}{2} \right)^n + \frac{1}{2}$

(4)

(3)の結果より、

$$a_n = 2^n d_n$$

$$= 5^n + 2^{n-1}$$

であり、これと(1)の結果より、

$$b_n = a_n - c_n$$

$$= 5^n + 2^{n-1} - 3 \cdot 2^{n-1}$$

$$= 5^n - 2^n$$

である。

(答) $a_n = 5^n + 2^{n-1}$
 $b_n = 5^n - 2^n$